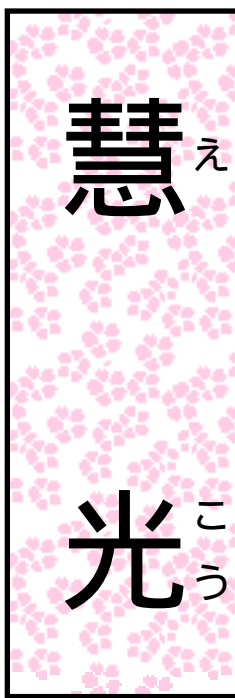




雪の中にフクジュソウ (鮎川 稔氏 提供)



金光寺寺報 第165号 発行所 金光寺 宮崎県西臼杵郡 五ヶ瀬町大字鞍岡 5927番地 0982 83-2338

今月のことば

死んで往ける道は そのまま 生きてゆく道です

東昇先生(1912~1987)は、科学と宗教について仏教の視点から論じられる貴重な先生ですが、60歳代に入られて間もないころに心臓に関わる大病を患われ、生・死のさかいをさまようほどの体験をされました。その時のことを、「“老い”の宣告」を受け「死に直面した」と言われています。そのような中で語られたおことばが、今月の法語です。

日ごろ私たちは、とりあえず元気であるときは「老い」とか、「死」とかを遠い未来のこととしてあまり問題にしないで日常を楽しんで生活しているというのが、一般的な姿でしょう。風邪などでちょっと熱が出たり咳き込んだりすると、「死ぬんじゃないか」などと思うこともありますが、熱が引き咳が止まると風邪を引いたことなど忘れてしまいます。東先生は、大病を患って初めて、

“死”に直面して、“私”の生きてきた生の総和は何であったか、“私”の生の総決算は、いったい何か、ということ“私”に問う。

ということとなったといわれます。人間は「死にゆく存在」であります。また仏教では「生者必滅」といわれます。この「私」が必ず滅していく、かならず死んで行く、そういう存在であることをしっかりと見つめる、阿弥陀如来の智慧と慈悲をいただいて見つめさせていただく、そこに本当の生き方の道が開かれるといえるでしょう。「死に向かって行く」身であることをしっかりと見つめ、大慈悲の光明に照らされてこそ、本当に生きてゆく道が開かれる、まさに「死んで往ける道は そのまま生きてゆく道」なのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

Table with dates and days of the week for Buddhist observance breaks in March and April.

2月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2015年 2月16日寂 満81歳 大石の内 馬原 京 様

ホームページ開いています。 URL http://konkhoji.jp/ 3月9日現在 アクセス数 75,471人

仏教用語豆辞典

しよつちゆう

「あの子はしよつちゆう、ファミコンばかりやっている」「あいつは、しよつちゆう、遅刻している」「いつも、常に、終始というときに「しよつちゆう」という言葉を使います。」

えつ、これも仏教語? まあ、そんなに驚かないで、話を聞いてください。お釈迦さまが説法を始められて、六十人の弟子ができたときのことです。彼らを集めて、「弟子たちよ、汝らは世の束縛を脱して、心の自由を体得した。これからは世の人々の利益と幸福のために、諸国を遍歴せよ。二人して同じ道を行くな」と、宣告されました。そしてさらに「初め善く、中ごろも善く、終わりも善く、道理と表現を兼ね具えた法を説け」

と諭されたのでした。「法華経」にも「正法を演説したもうに、初善、中善、後善なり」とあります。この「初中終」が訛って「しよつちゆう」となりました。だから、この言葉は、善いことに使ってもらいたいものです。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇パート「から」)

住職ひとりごと

渡瀬恒彦主演「十津川警部シリーズ」のサスペンスが好きです。BS放送でよく再放送されているので時々見ます。制作時期により出演者の変化がよくわかります。山村紅葉さんは制作時期が古い頃は若い俳優が体型的にスマート、その後一時はダブお太りでしたが、最近ではダブお太りでもかおやせになっ

(住職 松井卓郎)

最近の葬儀事情

弥生三月に入りました。ずいぶん春らしくなり、昨年、渡邊昇さんからいただいたフクジュソウは花の数を増やしてきれいに咲き、私たちの目や心を愛でてくれます。

先月号で「お供えもの」と題し、法事の際のお供さんや引き物の取り扱い、法事の際のお布施の取り扱い、仏参・寺参りの際のお供えもの取り扱いについて触れたところ、「寺報読みました」と言って、早速、記載どおりの行動をしてくださる方がありました。見てくださったんだ、作法を知ってくださったんだと、とてもうれしくなりました。

とについて触れてみます。身近な方が亡くなられてまず、最初にすること

最近では身近な方がご自宅でお亡くなりになることが少なくなりました。病院で亡くなられた故人のご遺体の搬送は葬儀屋さんがされます。そんな事情があるからでしょうか、ご遺体をご自宅にお帰りになること一番最初にされることは葬儀屋さんと通夜・葬儀の打ち合わせのようです。それが終わってから、故人ご往生の連絡を葬儀屋さんから当山にいただきます。身近な方がお亡くなりになり、ご遺体をご自宅にお帰りになられてご遺族が一番最初にしなればならないことは、手次ぎ寺に故人がお亡くなり

になられたことを伝えることです。寺院は連絡を受けたら「臨終勤行（枕経のこと）」をつとめに伺います。

臨終勤行は、この度の往生にあたって、故人をお浄土へお救い下さったご自宅の阿弥陀さまに、僧侶が故人に代わって救って下さったお礼のお参りをする事です。

臨終勤行が終わってから、通夜・葬儀の打ち合わせを僧侶・葬儀屋さんします。あくまで、故人ご往生の連絡は葬儀屋さんではなく遺族からお寺にします。

通夜・葬儀のお布施について 最近、通夜・葬儀のお布施を遺体茶毘に付され、遺骨となつてご自宅にお帰りになられ、遺骨のおつとめが終わってからお渡しになられます。お布施は先月号でも書きましたが、法施に対する財施と

なるものです。ですから、法施を受ける度に渡すものです。お通夜はお通夜で、葬儀は葬儀でお布施は渡します。

以上、最近のお葬式で気づいたことについて触れてみました。

最後にお願いをひとつ

以前から言っていることなのですが、僧侶が法衣を着ている時は氏名の呼び捨てはやめてください。「卓郎」「松井」と呼び捨てにするのではなく、「住職」と呼んでいただきと思います。私が気づいている範囲で呼び捨てにされる方が、大石の内地区に一人、長峰地区に二人、私の同級生の中に数人いらっしゃいます。今後は、法衣を着ている時に呼び捨てにされたら返事をしないことにします。決して、えらぶってのことではありません。よろしくお願います。

法語の世界

〈原文〉

信のうへは仏恩の称名退転あるまじきことなり。あるいは心よりたふとくありがたく存するをば仏恩と思ひ、ただ念仏の申され候ふをば、それほどに思はざること、大きな誤り。おのづから念仏の申され候ふこそ、仏智の御もよほし、仏恩の称名なれと仰せこと候ふ。

（蓮如上人御一代記聞書 百七十八）

〈現代語訳〉

「信心をいただいた上は、仏恩報謝の称名をおこたることあつてはならない。だが、これについて、心の底から尊くありがたく思って念仏するのを仏恩報謝であると考え、何となく思いもななく念仏するのを仏恩報謝でないと考えるのは、大きな誤りである。自然に念仏が口に出ることは、仏の智慧のうながしであり、仏恩報謝の称名である」と、蓮如上人は仰せになりました。

二〇一五年春季彼岸会法要のお知らせ

日時 三月二十一日 午前九時三十分
会所 金光寺本堂
勤行 正信念仏偈（草譜）六首引き
講師 未定
その他 彼岸会法要は金光寺仏教婦人会の例会です。会員の皆さまのご参詣をお願いします。

一般の門信徒の皆さまのご参詣もお待ちしております。法要終了後、仏教婦人会の総会を行います。

3月の二十四節気と七十二候

（は二十四節気・は七十二候）
啓 蟄（けいちつ・3月6日）
土中で冬ごもりしていた生き物たちが目覚める頃のこと。
蟄虫戸を啓く（すごもりのむしとをひらく・初候・3月5日～9日頃）
土中で冬眠していた虫たちが、暖かい春の日差しの下に出てき始める頃。
桃始めて笑う（ももはじめてわらう・次候・3月10日～14日頃）
桃のつぼみが開き、花が咲き始める頃。
菜虫蝶と化す（なむしちょうとかす・末候・3月15日～19日頃）
厳しい冬を越したさなぎが羽化し、美しい蝶へと生まれ変わり、羽ばたく頃。
春分（しゅんぶん・3月21日）
昼と夜が同じ長さになる日であり、自然をたえ、生物をいつくしむ日とされている。
雀始めて巣くう（すずめはじめてすくう・初候・3月20日～24日頃）
雀が巣を作り始める頃。
櫻始めて開く（さくらはじめてひらく・次候・3月25日～29日頃）
全国各地から桜の開花が聞こえてくる頃。
雷乃声を発す（かみなりのこえをはつす・末候・3月30日～4月3日頃）
春の訪れとともに、恵みの雨を呼ぶ雷が遠くの空で鳴りはじめ